



名曲の向こう側

第18回

ショパンが1830年(20歳)に書いた名曲ノクターン 嬰ハ短調(遺作)には、同時期に作曲したピアノ協奏曲 第2番へ短調 Op.21の各楽章の旋律の断片がパッチワークのように組み込まれています。その二番煎じ的な構成が、違和感なく新たな世界観を獲得しているのは、ショパンの天才たる所以でしょう。「第2協奏曲の練習用として姉に贈られた」という説が有力ですが、私は異なる推測を持っています。

ポーランド期待の新進ピアニスト、ショパンは、異国での活躍を期して、親友ティトゥスとともに、1830年11月ウィーンに演奏旅行に旅立ちました。ところが、ほどなくしてワルシャワで独立戦争が勃発しティトゥスは帰国、ショパンは一人ウィーンに取り残されます。そんな中、彼がウィーンから故郷の姉ルドヴィカに送った私的な作品のひとつに、このノクターンがありました。

ショパンは当時ワルシャワに好きな女性がいました。親友ティトゥスには、その恋の悩みを明かしています。「ぼくにはすでに理想の女性があるのだ。まだ一言も話したことがないのだが、6ヶ月ぼくは心のなかで忠実に仕えてきたのだ。彼女のことを夢み、彼女への想いでぼくの《コンチェルト》のアダージョ(注:ピアノ協奏曲第2番の第2楽章)を書いたのだ」1829年10月3日この女性こそ、ショパン初恋の人コンスタンツィア・グワトコフスカ。音楽院の音楽科に在籍する有望なソプラノ歌手でした。このあと、2人は距離を縮め、歌手と伴奏者として共演もしていますが、交際には至らなかったようです。ショパンは彼女への変わらぬ想いを抱きつつ、「決して忘れないで。ポーランドにはあなたを愛している人がいることを」という彼女の手紙を胸に刻み、ワルシャワを後にしました。

そんなショパンが異国で綴ったノクターン 嬰ハ短調。主要テーマは、彼がかつてコンスタンツィアへの一途な想いを託した協奏曲の第2楽章を彷彿とさせますが、憧れに満ちた変イ長調は、憂いを秘めた嬰ハ短調へと姿を変えてしまいました[譜例1]。曲中で回想されていく協奏曲の旋律[たとえば譜例2。他にも多くの断片が登場する]は、コンスタンツィアの思い出の象徴でしょう(彼女への想いが創作の原動力になった協奏曲ですから!)。そして、中間部には19歳のショパンが恋に落ちた頃に書いた歌曲「願い」の旋律まで登場します[譜例3]。「もしもわたしがお日様なら、あなただけのために輝きます。もしもわたしが小鳥なら、あなただけのためにさえずります」このヴィトフィツキの詩は、シ

あの曲って、そういう曲だったの!? ピアニスト内藤晃が、思わず「へえ!」と唸ってしまう「名曲の向こう側」に皆様をご案内します。

ショパン/ノクターン 嬰ハ短調(遺作)



右…コンスタンツィア・グワトコフスカ
左…フレデリック・ショパン

内藤 晃

【譜例1】 協奏曲



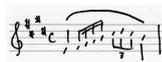
ノクターン



【譜例2】 協奏曲



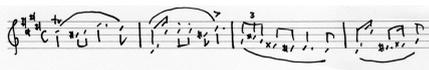
ノクターン



【譜例3】 歌曲「願い」



ノクターン



ョパンの初々しい恋心そのものでした。このような旧作の継ぎ接ぎの意味するところに思いを馳せると、本作品は、ショパンの、ワルシャワに置いてきた淡い初恋への追憶と訣別の辞ではないでしょうか。初恋の思い出を詰め込んだ小品で未練に区切りをつけたショパンは、異国で一人、前へと歩み始めるのです。

参考文献

小坂裕子著『ショパン 知られざる歌曲』集英社新書
アーサー・ヘドレイ編 小松雄一郎訳『ショパンの手紙』白水社

推薦盤

ノクターン/アレクシス・ワイセンベルク [EMI]
ワイセンベルクのひんやりした質感を持つ透明なタッチが、このノクターンに漂う凜とした諦観にぴったりである。
歌曲/エリザベート・セーデルストロム (S)
ヴラディーミル・アシュケナーズ(P) [DECCA]

内藤 晃 (ないとう・あきら)

ピアニスト・指揮者・作編曲家。

「もっと深い音楽体験」への道案内をライフワークとし、独自の切り口による講座やレクチャーコンサートが好評。オーケストラの弾き振りも行う。

「おんがくしつトリオ」主宰。



(イラスト= ©いとう まりこ)

